

奨学生募集要項（2026年度）

No.

7

神戸大学推薦枠（A区分）

| | | | |
|-------------------|---|-------|---|
| 奨学団体名 (奨学金名称) | 井植記念会 | | |
| 2026 募集依頼人数 | 1名 | | |
| 募集学年 | 博士（博士後期）課程 | | |
| 募集学部・研究科 研究分野等 | 理学・工学・システム情報学・農学・海事科学・医学・保健学、科学技術イノベーション研究科 | | |
| 大学締切時期 | 神戸大学推薦枠（A区分）申請要項参照 | | |
| 給付 | 月額 80,000円 | 貸与 | 無 |
| 授業料相当額支給 | 無 | | |
| (採用時) 一時金 | 無 | | |
| 併給 | 併給可 | 年齢制限 | 無 |
| 就労制限 | 一 | 出身地制限 | 無 |
| その他応募条件 | <ul style="list-style-type: none">・独立の生計を営む連帯保証人を1人定めること・採用された場合は、8月19日（水）の奨学金贈呈式に必ず出席すること | | |

令和8年2月5日

国立大学法人 神戸大学
学長 藤澤 正人様



令和8年度 英才育成奨学生の募集について

拝啓 向春の候、貴大学におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
また、平素より弊財団の英才育成奨学生制度の運営につきまして、ご協力を賜り厚くお礼を
申し上げます。
さて、次年度の英才育成奨学生を下記の通り募集させていただきます。
貴大学大学院博士課程において該当者がございましたら、「英才育成奨学生規程」に従って
ご推薦賜りたくご案内申し上げます。

敬具

記

1. 募集対象 : 貴大学の理学・工学・システム情報学・農学・海事科学及び医学研究科等に在学し、博士課程後期を履修しつつある者で、学業成績が優秀、かつ、心身ともに健全であり、将来において学術水準の向上、社会の進歩発展に著しく貢献しうる可能性が認められる者
(英才の育成を目指しております、経済面はさほど重視しておりません。)
2. 募集人数 : 新規1名をご推薦ください。
3. 出願手続 : 同封書類のうち、記入済みの①~④および⑦~⑨をご提出ください。
同封書類の詳細については次ページをご覧ください。
4. 出願期限 : 令和8年5月8日(金)
<更に時間を要する場合は、ご一報いただければ幸いです。>
5. 今後の予定 : •選考委員会:7月初旬に開催し、採用の可否を決定する予定です。
•奨学生贈呈式:8月19日(水)
 奨学生としての採用が決定した皆様には、夏休み期間中になりますがこの日に井植記念館(神戸市垂水区)にご集合いただき、贈呈式を行う予定にしておりますのでお含みおきください。
 なお、贈呈式当日の交通費は実費を支給させていただきます。

英才育成奨学金規程

| | |
|-----|-------------|
| 制 定 | 昭和46年 4月 1日 |
| 改 定 | 平成20年 4月 1日 |
| 改 定 | 平成23年 4月 1日 |
| 改 定 | 平成26年 4月 1日 |
| 改 定 | 平成27年10月 1日 |
| 改 定 | 令和 7年 3月10日 |

公益財団法人井植記念会

公益財団法人井植記念会 英才育成奨学金規程

第1章 総則

(目的)

第1条 公益財団法人井植記念会英才育成奨学金は、公益財団法人井植記念会（以下「井植記念会」という。）の定款第4条第2号の規定の趣旨に基づき、大学院に在学する英才に対して学資金を支給することにより、わが国の学術水準の向上に寄与するとともに、社会の進歩発展に著しく貢献し得る人材を育成することを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 奨学金 井植記念会から支給する学資金をいう。
- (2) 奨学生 井植記念会から奨学金の支給を受ける者をいう。

(奨学生の資格)

第3条 奨学生を出願することができる者は、次の各号のすべてに該当する者とする。

- (1) 兵庫県出身者および兵庫県内の大学の在籍者であること。
- (2) 東京大学・京都大学・大阪大学・名古屋大学・神戸大学・兵庫県立大学の各大学院理学研究科・工学研究科又は医学研究科またはそれらに準じる研究科に在学し、博士課程後期を履修しつつある者であること。
- (3) 学業成績が優秀で、かつ、心身ともに健全であり、学術の理論及び応用に卓抜した能力と実績を示し、将来においてわが国の学術水準の向上・社会の進歩発展に著しく貢献し得る可能性が認められる者であること。

(奨学金の支給期間及び支給金額)

第4条 奨学金の支給期間は、奨学生に採用したときから、その者にかかる標準修業年限の終期までとする。

- 2 前項の期間内に支給する奨学金の額は、月額8万円とする。

3 奨学生は第13条の規定に該当する場合のほかは、原則として返還を要しない。

第2章 奨学生の採用と奨学生の支給

(出願手続き)

第5条 奨学生を志願しようとする者は、申請書（様式第1号）に次の各号に掲げる書類を添えて、在学する大学の総長または学長を経由し井植記念会に提出しなければならない。

- (1) 奨学生推薦調書（様式第2号）
- (2) 学部ならびに修士課程における学業成績証明書
- (3) 奨学生調書（様式第3号）
- (4) 健康診断書（様式第4号）
- (5) その他井植記念会が必要と認める書類

(奨学生の採用)

第6条 奨学生の採用は、学識経験者を含む奨学生選考委員会の選考を経て井植記念会の理事長（以下「理事長」という。）が決定する。

- 2 奨学生選考委員会の委員は、理事長が選任する。
- 3 奨学生の採用決定は、採用決定通知書（様式第5号）により在学する大学の総長または学長を経て本人に通知する。

(誓約書の提出)

第7条 前条の奨学生採用決定通知書を受理した者は、その日から起算して20日以内に誓約書（様式第6号）を井植記念会に提出しなければならない。

(連帯保証人)

第8条 奨学生は、独立の生計を営む1人の連帯保証人を定めなければならない。

- 2 前項の連帯保証人は、奨学生と連帯してこの規程を守り、所定の義務を遂行しなければならない。
- 3 井植記念会が第1項の連帯保証人を不適当であると認めたときは、奨学生はすみやかに連帯保証人を変更しなければならない。

(奨学金の支給)

第9条 奨学生は、3箇月ごとに一定の日を定めて在学する大学の総長または学長を経て本人に支給するものとする。ただし、理事長が必要であると認めたときは、3箇月分以上を一時に支給することがある。

(奨学金受領書の提出)

第10条 奨学生は、奨学生を受領したときは、そのつど直ちに奨学金受領書（様式第7号）を井植記念会に提出しなければならない。

(奨学金支給の休止)

第11条 奨学生が長期にわたって欠席し、又は休学したときは、欠席し又は休学した日の属する月の翌月分から復学した日の属する月までの奨学金の支給を休止することがある。

(奨学金支給の取り消し)

第12条 奨学生が次の各号のいずれかに該当するに至ったときは、奨学金支給の決定を将来にわたり取り消すものとする。

- (1) 第3条に規定する要件を欠くに至ったとき。
- (2) 傷病のため学業遂行の見込みがなくなったとき。
- (3) 標準修業年限内での修了が見込めないとき。
(本条第1号・第2号・第4号及び第5号に該当する場合を除く)
- (4) 学業成績又は性行が不良になったと認められるとき。
- (5) 在学する大学で処分を受け、又は処分により学籍を失ったとき。
- (6) 奨学金の支給を辞退する申し出があったとき。
- (7) 奨学生が死亡したとき。
- (8) 前各号に掲げるもののほか、井植記念会が奨学生として不適当であると認めたとき。

第3章 奨学金の返還

(奨学金の返還及び返還方法)

第13条 奨学生が、前条第4号・第5号・第6号及び第8号に該当するに至ったときは、理事長が指定する期間内に、支給を受けた奨学金の全額又は一部金額の返還を求めることがある。

- 2 前項の奨学生の返還方法は、一時払い・年賦・半年賦又は月賦の方法によるものとし、井植記念会が指定する金融機関に払い込むものとする。ただし、奨学生であつた者の都合により、いつでも繰り上げて返還することができる。
- 3 連帯保証人は、奨学生であった者と連帯して奨学生の返還義務を負うものとする。

第4章 届け出義務

(学業の成果及び生活状況の報告義務)

第14条 奨学生は、毎学年末に学業の成果を証するに足りる書類及び生活状況報告書を井植記念会に提出しなければならない。

(異動届の提出義務)

第15条 奨学生は、次の各号のいずれかに該当するときは、すみやかに井植記念会に届け出なければならない。

- (1) 休学・復学・転学又は退学したとき。
- (2) 停学その他の処分を受けたとき。
- (3) 連帯保証人を変更したとき。
- (4) 奨学生及び連帯保証人の氏名・住所その他重要事項に変更が生じたとき。

附 則 この規程は、昭和46年4月1日から施行する。